



佐藤 さとら

未雲 みくも

スペースチャイナ

代表取締役

今年も余すところわずかとなり、「南風」への寄稿も最終回となった。拙い文章をお読みいただいた読者の皆さまに感謝申し上げ、ご助言やご賛同をいただいた「中国人の沖縄観光」の話で締めくりたいと思う。

今年これまでに沖縄を訪れた中国人観光客は4千人を超えた。海外旅行は今や中国富裕層のステータスシンボルとして浸透しつつある。

中国人の海外旅行動向を国と地域別にみると、香港、マカオ、台湾地区の割合が最も高く、続いてシンガポール、日本、韓国となっている。これらの地域は、美しい自然と景観、独特な風土を持ち、言葉や交通の利便性などの条件が整った観光地として多くの中国人旅行者を魅了している。

日本は中国語圏を除く訪問先として1番目に選ばれている海外観光地である。中国人観光客は、まず東京、大阪、京都といったゴールデンルートに集中する。

南風

沖縄観光新未来凶

それを仕方がないとあきらめている沖縄の企業は少なくないが、地方の中にも中国人受け入れで大健闘している地域がある。首都圏を除いて誘致客数1位にランクインした山梨県である。空の玄関を持たず、さほど有名な観光地でもない山梨を昨年訪れた中国人観光客は18・8万人で、全国1位である。中国人観光客の5人に1人が訪れる人気旅行先となった理由は、官民一体となって「富士山と温泉」を積極的にPRしたことにある。

35年ぶりに落ち込んだ沖縄観光の現状打開のために、見習うべきよい例だと思ふ。沖縄は日本のリゾート地であり、日本の観光地や日本人のきめ細かいサービスに憧れる中国人富裕層にとって極めて魅力的な海外旅行先になる要素が整っている。

官民一体となって、積極的に中国人観光客を誘致し、沖縄観光の新未来を開拓する時期が到来している。